建物一斉公開イベント
open! architecture 2011 HIROSHIMA
AUG 13-14, 2011

京橋会館
KYOBASHI KAIKAN 1954

開催にあたって

京橋会館見学会にご来場いただきありがとうございます。
この建物は戦後の復興期に建てられたものであり、現代の住まいとは多くの違いがあります。不自由に思えるところもあるかもしれません。
しかし、現代の集合住宅である「マンション」は極端に商品化され、間取りは必ず nLDK で窓は南向きで…と、様々な定番に縛られています。
おそらく京橋会館のような中庭は実現できないでしょう。
そう考えると、実は現代の私たちの住まいこそが不自由なのかもしれません。
京橋会館の見学を通して自分たちの住まいをちょっとだけ見つめ直す、そんなきっかけになれば主催者としてこれ以上の喜びはありません。
足元に気をつけて、どうぞごゆっくりとご覧ください。

（アーキウォーク広島　代表　高田 真）

この資料はアーキウォーク広島が独自に調査・作成したものであり、施設管理者および建設事業者の見解ではありません。ご意見・ご質問などございましたら、施設管理者ではなくアーキウォーク広島にお寄せください。（ mail : support1@oa-hiroshima.org ）

本日の見学会は、施設管理者様の協力のもと、特別に開催するものです。問題が発生した場合は見学会を中止することもありえますので、以下の注意事項を必ず守ってください。

■周辺道路での駐車・駐輪は近所迷惑となるため禁止しています。外部の駐車場を利用してください。

■建物内および周辺道路において大声で騒ぐ、ゴミを捨てるなどの迷惑行為は禁止です。タバコを吸うのも極力控えてください。

■備品・建具・家具などの持ち去りは犯罪になりますので絶対におやめください。

■立入禁止と書かれた箇所に無断で入らないでください。

■建物内には、一部床板が抜けていて足元の悪い箇所や、天井が低く頭をぶつけやすい箇所もあります。また、室内はホコリが多く、ぜんそく等の持病のある方には見学をおすすめいたしません。ご見学は自己責任でお願いします。

■見学中の負傷・器物破損・盗難被害等について主催者はその責を負いません。

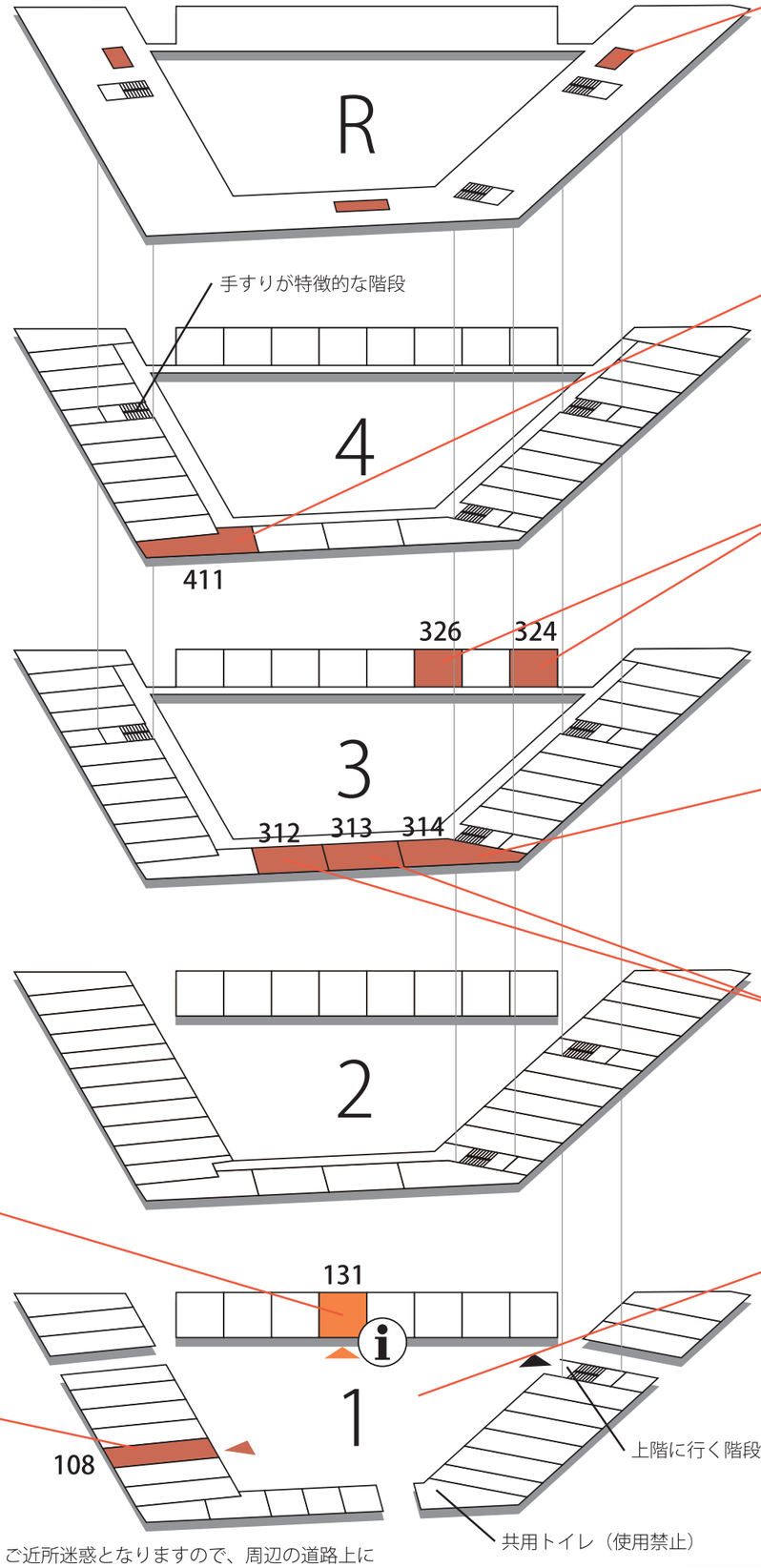
■ドアを開ける時は、その先に人がいることも考え、ゆっくりと開けてください。また、建物内のトイレは一切使用できません。（管理者との取り決めによる）

■中庭を駐車場として使っている住人の方がおられます。車両が出入りすることがありますので注意してください。

■本日も暑くなっています。熱中症にも注意してください。建物内で飲み物を飲まれるのは構いません。（ゴミは所定の場所に捨てるか、お持ち帰りください。）

■来場者多数の場合、一部入場を制限する場合があります。

■写真撮影は可能ですが、近隣の住宅にカメラを向けたり、道路の通行を阻害することのないよう、十分に配慮してください。プライバシーに関わる内容を含む写真をインターネット等で公開することはおやめください。



屋上の洗い場

屋上には洗い場があります。建設当時は洗濯機が普及していなかったので、ここで洗濯板を使った洗濯が行われていたようです。
今とは少し違う暮らしぶりを感じさせる場所です。

廊下のある住戸（411）

「続き間」主体の京橋会館には珍しく室内に廊下があり、現代のマンションに近い感覚の間取りになっています。足元に注意してご覧ください。

標準住戸（324・326）

３～４階はおおむね同じ形の住戸が並んでいます。324 号室（入口のみ見学可）と 326 号室は標準的なタイプの部屋であり、伝統的な長屋と同じ「続き間」になっています。

白い部屋（314）

この部屋では全体が白く塗られていて、おしゃれなカフェのような雰囲気です。現代の住まい方に合わせていこうという意図を感じます。

東側の住戸（312・313）

東側の住戸は奥行きがないためか、２部屋が平行に並んでおり「就寝分離」に対応した間取りになっています。

中庭

京橋会館の最大の特徴は中庭です。かつては子供の遊び場があり、また１階住戸のお勝手口が面していたので、住民どうしの交流もあったことでしょう。いまどきのマンションとは違う、独特の雰囲気を味わってみてください。

案内所（131）

今回の見学会での案内所およびギャラリーとしています。内部には詳しい展示がありますのでぜひご覧ください。

メゾネットタイプ（108）

京橋会館は商店街の移転先として計画されたため、１～２階はメゾネット（上下階で１戸）になっており、１階は店舗として使用されました。また、１階には風呂があり、今でも木製のおけを見ることができます。

ご近所迷惑となりますので、周辺の道路上に溜まらないようにしてください。

裏面の解説もご覧ください！

[re-ki-shi] れきし ～京橋会館ができるまで～

まだ戦災の傷が深く残り、市民生活も困窮を極めていた1950年代、広島では復興のための都市計画がつくられ、道路建設や区画整理など、新たな街づくりが進んでいました。終戦直後とはいえ、既に小屋が建っているところを道路にしていくのは大変な苦労をともなうものでした。
広島駅からのびる「駅前通り」もそういった新しい道路の一つです。道路建設のためには商店街の一部が移転する必要があり、それらのお店や住宅の移転先として計画されたのが、この京橋会館です。建設には曲折がありましたが、最終的には広島県住宅公社（現在の広島県住宅供給公社）が1954年に完成させ、その後広島市に移管されました。

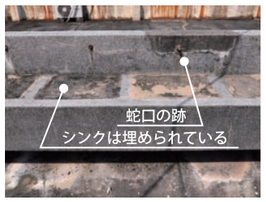
[ku-ra-shi] くらし ～当時の生活ぶりを感じる～

京橋会館の部屋には電気・水道・ガス・水洗トイレが備わっています。当時の広島では、これだけでも豪華仕様でした。建物内をめぐりながら、当時の暮らしに思いを馳せてみましょう。

①キッチンシンク
当初は「人造石研出（じんぞうせきとぎだし）」でした。これは石とセメントを混ぜて固めてから職人が研いで仕上げたものです。後にステンレス製に交換されたようです。

②浴室
１階の住戸にはお風呂がありました。（３～４階にはありません）108号室では今でも木製のレトロな風呂おけを見ることができます。

③屋上の洗い場
屋上には、大きめのシンクと物干し台があります。当時は洗濯機が普及していなかったので、ここで洗濯板を使った洗濯が行われていたようです。

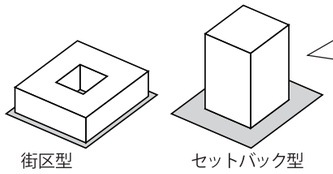


④スチールサッシ
窓枠は鉄でできています。後に普及するアルミ製よりも質感が高いのが魅力です。跳ね上げるように開ける、今では珍しいタイプ。

⑤ダストシュート
各階に設けられた投入口にゴミを入れると、１階の集積所に落ちていくように計画されていました。投入口がどこにあるか探してみてください。

[ka-ta-chi] かたち ～配置計画と外観デザイン～

①街区型配置計画
京橋会館最大の特徴は「街区型」配置計画にあります。街区型とは、建物を道路側に寄せて中庭を設けるスタイルのことです。日本では建物を道路から後退させる「セットバック型」が主流ですが、ヨーロッパでは「街区型」が好まれます。



街区型は豊かな中庭や整った街並みを作れるのがメリット。
セットバック型は歩道的な空間を作れるのがメリットです。

京橋会館は商店街の移転先として設計されました。お店は道路に面していることが大切なので、とにかく道路沿いに店舗区画を配置していった結果、街区型になったようです。しかしそれでも数が足りなかったらしく、中庭にもお店が置かれています。これらの店にお客さんを導くために、道路と中庭を結ぶ太い通路が設けられたのでしょう。

1階平面図

現代の法制度のもと、経済性を重視し高度に商品化された「マンション」では街区型を採用するのは困難です。ぜひこの機会に中庭の良さを感じてみてください。

②外壁をいろどるモダンデザイン
京橋会館が建てられたのはまだ貧しい時代であり、手の込んだ装飾などはありません。しかし外壁には当時先端的のモダンデザインを見ることができます。
まずは南側の外壁。出窓・ヒサシ・縦長の窓が組み合わされています。特に縦長の窓は倉庫に付けられているものであり、実用性というよりはデザインを重視したものでしょう。
東側外壁の表情は全く異なり、横長の窓をベースにしつつ縦ヒサシをアクセントとしています。

南側外壁

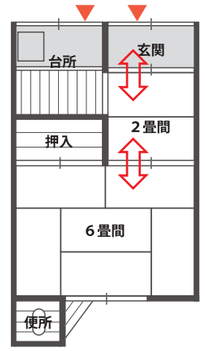
東側外壁

[ma-do-ri] まどり ～長屋からマンションへの過渡期～

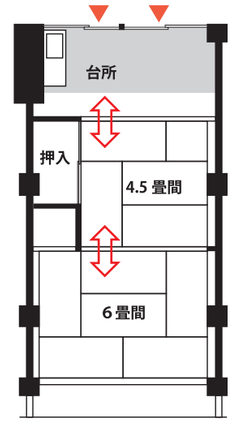
間取りにも注意してみましょう。京橋会館の住戸は廊下のない「続き間」で、伝統的な長屋から現代のマンションへ変化していく途中の時代の設計であることがわかります。

Point! 「就寝分離」「食寝分離」って何？
■就寝分離 … ２部屋ある場合、子の成長に伴って親子で寝室を分けることが多くこれを就寝分離といいます。長屋のような「続き間」では部屋間の独立性が低く、就寝分離は困難です。
■食寝分離 … 従来の日本家屋では食事と就寝を同じ部屋で行うのが普通でした。しかし調査してみると、独立した食堂の必要性が高いことがわかり徐々に寝室と食堂を分ける設計が増えていきました。

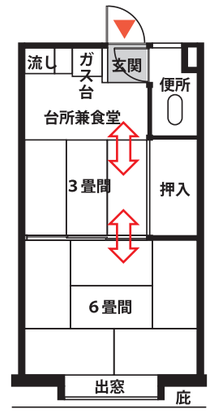
６畳間から玄関に行くには必ず２畳間を通らねばならず、これでは就寝分離は難しい。【↓】



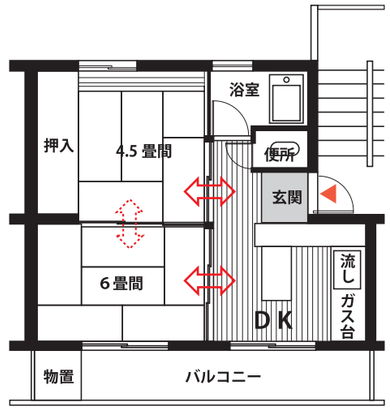
木造長屋 明治～昭和（戦前期）
伝統的な集合住宅である長屋は廊下のない「続き間」です。台所は土間で、ガスや水道は無いのが普通でした。戦前の都市部の労働者住宅は概ねこのような状態でした。
就寝分離 × 食寝分離 ×



端島炭坑日給社宅 1918年
「軍艦島」として有名な端島の社宅群は日本初の鉄筋コンクリート造のアパートです。外見は近代的な建築ですが間取りは長屋そのものであり、土間もありました。
就寝分離 × 食寝分離 ×



京橋会館 1954年
設計上の余裕がなく、長屋と同様の「続き間」になっています。ただ、設計図には「炊事場兼食堂」との記載があり狭いながらも食寝分離を目指そうという意図がみえます。
就寝分離 × 食寝分離△



公団蓮根団地 1956年
高度成長期に多く建てられた公団住宅。公団はこの間取りを「２ＤＫ」と命名しました。ＤＫ（ダイニングキッチン）とは公団が考えた和製英語です。その後、民間企業が「マンション」を大量に建てる時代になると「ｎＬＤＫ」という間取りの定番が確立し、現代に至っています。
就寝分離◎ 食寝分離◎

昭和初期の長屋の様子（再現）

ガスはなく、煮炊きには炭が欠かせなかった。

京橋会館の標準住戸（上の間取り図とは左右逆）

６畳間（手前）から玄関に行くには必ず３畳間を通らねばならず、各部屋の独立性は低い。

京橋会館の全ての部屋が「続き間」なのではなく、411号室のように廊下があり就寝分離が実現している部屋もある。（写真は311号室）

公団蓮根団地の様子

予告 建築をめぐって、知らなかった広島を探しに行こう！

建物一斉公開イベント
open! architecture
2011 HIROSHIMA 10.8 sat－10.9 sun

オープン・アーキテクチャー
open! architecture 2011 HIROSHIMA
2011年10月8日（土）～10月9日（日）
広島市内および近郊で10箇所の建物公開を予定。
主催：アーキウォーク広島
プロジェクトアドバイザー :open! architecture 実行委員会　http://open-a.org

参加するには？ ▶ http://www.oa-hiroshima.org にアクセス！ ▶ 指示に従ってお申し込みください。（受付開始は８月下旬ごろの予定です）